



体験から学ぶ

副校長 入部 和也

5月28日（金）に5年生が稲作体験（田植え）を行いました。この田植え体験は、舞岡公園小谷戸の里指導員の原口廣志さんはじめスタッフの皆さんや多くの保護者の皆さんのサポートにより実施されたものです。当日は気温が高く、暑さの中での活動となりましたが、子どもたちは、田んぼの泥の中に足を入れる感触や稲を植えるコツなどを熱心に体験しました。特に泥の感触は子どもたちにとって鮮烈だったようです。

田の中に入った子どもたちは、「泥がぬるぬるしていた。」「下（水の底の地面）がでこぼこしていて、立っているだけでも大変だった。」「足が泥から抜けなくなった。」「生き物がたくさんいて楽しい。」「田植えをしたので稲刈りが楽しみになった。」などの体験を語ってくれました。

子どもたちの言葉は自分が実感したことから紡ぎ出した言葉です。泥の表現一つを採っても「ぬるぬる」だけでなく、「ねちょねちょ」「ぐちゃぐちゃ」「べちゃべちゃ」等、児童によって様々でした。また、「足が泥から抜けない」時に一步進むためにどの位の力が必要であったのか、どのように足を引き抜けば、進みやすくなるのか等、一つの言葉の裏側には、体験に基づき、多くの言葉が隠れています。ここに体験的な学習の価値があると思います。

体験したことを言語化する学習や、体験したことを人に伝えていくなどの学習は、子どもたちにとって体験を振り返り、新たな気づきを促すこと、他者に自分の実感を最もよく伝えるために工夫することなど多くの学習効果が見込めます。

学校は多くの子どもたちが集まり、集団としての体験ができることに特徴があります。学級・学年としての活動や異年齢集団での活動など学校ならではの体験活動を一層充実させ、子どもたちがそこでの体験や学びを自分の言葉で語ることを通して、それぞれの力を高めていきたいと考えます。

また、小学校の学習において体験活動を取り入れることは、横浜の時間（総合的な学習）をはじめ、各教科の学習においても有効で、心豊かな人間性の育成、主体的・対話的で深い学びによる学力の醸成及び子どもにとって大切な生きる力の源となる事が期待されています。

本校では、こうしたことから探究活動の充実をめざして生活科や横浜の時間（総合的な学習）を中心とした体験的な学習を取り入れています。地域の皆さんのご協力のもとに地域の特色を生かした活動や学区の安全・安心に目を向けた活動などにも取り組んでいきたいと思ひます。しかしながら、体験だけを行ってれば、学びが充実してくるわけではありません。大切なのは、体験を通じたあとの振り返りです。何を感じとって何が課題として残ったのか。それを解決するにはどうすればよいのか。体験を体験だけに終わらせることなく、体験した後に思考することを今後も大切にしていきたいと思ひます。

5月 各学年の活動の様子

1年生「交通安全教室」

5月18日に交通安全教室が行われました。校庭に横断歩道のように引かれている線や少し小さい信号機にわくわくしながら交通ルールを学びました。「手を挙げて、右、左、もう一度右を見て」その次は歩道に車が止まっているので、車の陰から身を乗り出して車道を渡ると、一つひとつ確認をし、交通ルールを守ることへの意識を高めました。



2年生「だいすきみつけた」

生活科の学習では、ひとりひとり野菜の苗を育てています。日々、小さな成長の変化に気付いたり、虫や鳥対策について調べたりしながら、大切に育てています。また、まちたんけんでは、まちのお気に入りを紹介し合ったり、新しい発見をしたりしながら、舞岡のまちへの関心を高めています。



3年生「交通安全教室」

5月18日に交通安全教室が行われました。「右、左、右、右後ろ！」と確認をしながら、自転車に乗るときの交通ルールを学習しました。マネキン人形を使った、内輪差による事故を実際に見たり、ヘルメットの必要性を考える実験を見たりと、安全に自転車に乗ることの大切さを実感していました。



4年生 「いのちの学習」

5月21日に、助産師さんをお招きし、いのちの学習を行いました。思春期にさしかかる子どもたちにとって、第2次性徴における体の変化や、性に関するお話は、「大人になり始める」ということなのだと思われていました。いのちがあることの尊さを感じることができました。



5年生「稲作体験」

総合学習では、舞岡公園の田んぼの一部を借りて、稲作体験をしています。農家の方に教えていただきながら、5月は田起こしと代かきをしました。

田んぼに入って農作業をしたり、農具を使用したりと、初めての経験が多く、毎回の活動を楽しみにしています。

年間を通じて、米作りの工夫や苦労を学習していきます。



6年生「模擬選挙・租税教室」

4月30日には選挙管理事務所の方を迎えて、選挙の話をしていただいた後、実際に給食のデザートで何を選ぶか考えて投票する「模擬選挙」をしました。また、5月24日には税務署の方から、税金の話をしていただきました。興味深い話や楽しい活動を通して、「選挙」や「税金」について、自分事として考えることができました。



個別級「学級目標 みんなでなかよく フラワースター」

4組の学級目標が決まりました。今年度の学級目標は「みんなでなかよく フラワースター」です。4組での話し合いを通して、どのようなクラスにしていきたいか考えました。4組のみんなが仲良く楽しく過ごしていきたいという願いと、花のようにのびのびと育て、星のように輝くクラスにしたいという思いが込められています。また、図工の時間で掲示用の学級目標を作成しました。4組の子どもたちが、学級目標を意識しながら学校生活を送れるように支援していきます。



1 中期学校経営方針

(1) 学校教育目標と教育課程全体で育成を目指す資質・能力

学校教育目標	教育課程全体で育成を目指す資質・能力
○生活を見つめ、意欲をもって粘り強く学び続ける子を育てます。(知) ○多様性を認め、尊重し、自他ともに大切にすることを育てます。(徳) ○自らの健康を見つめ、たくましい心身をつくる子を育てます。(体) ○舞岡を愛し、ともに生きるすばらしさを感じる子を育てます。(公) ○社会を見つめ、社会の変化に柔軟に対応できる子を育てます。(開) ～見つめ、認め、ともに生きる～	◎主体的に学ぶ力と課題解決能力 ◎多様な社会の中で共に生きることに必要なコミュニケーション能力 ○<よりよい社会を創造する力> ・地域に貢献する気持ち ・夢や目標をもち、生き方を追求する姿勢 ・多様性を尊重する態度 ・協働的に行動する姿勢

(2) 中期取組目標

中期取組目標
・基礎学力の定着に向けて、「わかる授業」「楽しい授業」「児童の意欲が高まる授業」を展開し、粘り強く取り組む姿勢を育てます。(知) ・基本的な学校生活や社会のルールを守る規範意識や、自分と同じように相手を尊重する心や態度を育み、協働、共生していく姿勢を育てます。(徳) ・心と体の健康に関心をもち、自他のいのちを大切に、進んで健康づくりに取り組む子を育てます。(体) ・自然を大切に、地域の行事や、地域の方々と交流する活動を充実させ、舞岡を愛する子を育てます。(公) ・様々な人との関わりを通して社会への目を広げ、よりよい環境、生活の仕方について考え、行動しようとする姿勢を育てます。(開)

(3) 学力向上に向けた重点取組分野・具体的取組

重点取組分野	具体的取組				
<table border="1"> <tr> <th style="text-align: center;">確かな学力(学習指導)</th> <td rowspan="2"> ①学習において「問いをもち続けていく」ため、学習への意識付けを意図的計画的に行っていく。 ②考えや思いを言語化できるようにし、子ども一人一人の表現力を身に付けていく。その基礎としての「語彙力」を向上させるためにスキルタイムや学習における言語活動を有効に活用していく。子どもたちの指導と評価に責任をもち学年運営に取り組む。 </td> </tr> <tr> <th style="text-align: center;">担当</th> <td>学力向上推進部</td> </tr> </table>	確かな学力(学習指導)	①学習において「問いをもち続けていく」ため、学習への意識付けを意図的計画的に行っていく。 ②考えや思いを言語化できるようにし、子ども一人一人の表現力を身に付けていく。その基礎としての「語彙力」を向上させるためにスキルタイムや学習における言語活動を有効に活用していく。子どもたちの指導と評価に責任をもち学年運営に取り組む。	担当	学力向上推進部	
確かな学力(学習指導)	①学習において「問いをもち続けていく」ため、学習への意識付けを意図的計画的に行っていく。 ②考えや思いを言語化できるようにし、子ども一人一人の表現力を身に付けていく。その基礎としての「語彙力」を向上させるためにスキルタイムや学習における言語活動を有効に活用していく。子どもたちの指導と評価に責任をもち学年運営に取り組む。				
担当		学力向上推進部			

2 令和3年度 学年・教科等として育成を目指す具体的な資質・能力と具体的取組

	具体的取組
1年	○自分らしさが発揮できるようにする。園時代につけてきた力を小学校生活の中でも「できる」を実感し、さらに自信とるような機会をつかっていく。 ○成長を喜び、意欲を高めていけるようにする。「やってみよう」「もうちょっとがんばってみよう」と思える環境を整える。またそういう心の動きから「できた」につながった経験を重ねていく。 ○友達のありのままを受け入れ、共によいところを伸ばしていけるようにする。
2年	○子どもの「できた」を積み重ね、自ら学び進められる子を育てる。言葉や態度を大切にしながら学び合いや伝え合いの活動を通し、思考力・判断力を育てる。 ○クラスや学年の友達との関わりや異学年の友達との活動を通して、自分のことも友達のことも認めて受けとめられるような関係作りを目指す。 ○様々な人との関わりをもち、気持ちよく挨拶できる子を育てる。
3年	○あきらめずに最後まで取り組む力を養うために、友だち同士で励まし合える学習環境を作る。小さな目標を設定し、スモールステップで進めるように工夫したり、見通しをもって学習したりできるようにする。 ○言葉で気持ちを伝え合い、互いの思いを大切に力をつけるために、授業中や帰りの会など、子どもたちが友だちのよいところを見つけられる機会を多く作る。また、教師も意識的に子どもたちの良さに目を向け、日ごろから声をかける。
4年	○生活や学習を自己調整していけるようにする。 ・身に付ける力と、それによって生活に寄与することについてイメージする。 ・一人ひとりが自分の目標設定をしていけるようにする。 ・できたことについて、具体的かつ言語的なふりかえりをする。 ・次の目標を言語化する。 ・対話を通して、多面的・多角的なものの見方を身に付ける。
5年	○全ての教科・領域において、言語活動を通して、自分の考えを表現する力を高める。 ○多様な考え方を認め合う態度を基盤として、友達と協働的に学習していくことの楽しさを実感しながら、自分の考えを深めていけるようにする。 ○計画的に振り返りの時間を設定し、自分の成長を実感させながら、次の学習意欲を高めていく。
6年	○自分で考えて行動できるよう責任ある役割を一人ひとりにもたせる。 ○学習環境を工夫することで、既習内容を生かしたり、友達の考えを聞いたりしながら自身の考えを深めていけるようにする。 ○学校全体に関わる活動を通して、お互いの良さを見つけたり、人と関わり合うことの喜びを味わったりできるようにする。
個別級	○教科書、プリント、具体物を使い、繰り返して学習を行うことで「できた」体験を積み重ね、基礎基本の定着をめざす。 ○いろいろな場面で、友だちの良い所を見つけ、発表する機会をもつ。温かい言葉を受けることで、自己肯定感を高める機会としていきたい。 ○自分の思いを表出すること、適切な行動、言葉で伝えることをできるように支援していきたい。ソーシャルスキルトレーニングを通して、友だちと適切に関わる力を身につけていく。